

応用生態工学会ニューズレター
Ecology and Civil Engineering Society (ECESJ)
2006年(平成18年)6月28日(水)発行

No.33

(発行所) 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5第7麹町ビル25号室
TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520 E-mail: eces-manager@ecesj.com HP: http://www.ecesj.com/
(発行者) 応用生態工学会(編集責任者: 幹事長 江崎保男, 事務局長 島崎由美)

Contents

1	はじめに	1
2	理事会報告	3
3	大会実行委員会・幹事会報告	4
4	10周年記念大会(第10回)開催案内	
5	委員会報告	4
	(1) 普及委員会	
	(2) 交流委員会	
6	共催行事報告	5
	(1) ICLEE主催「東アジアの生態系修復に関する国際会議」	
7	これからの行事案内	8

1 はじめに

- 10周年記念大会の開催案内を掲載しました。研究発表募集のスケジュールは前年より少し早まっていますので、ご注意ください。また、記念シンポジウムは河川整備基金の助成を受け実施することになり、トクナー博士の演題も決まっています。2ページ以降をご覧ください。
- 学会事務局で使用しているメールアドレスを変更することにいたしました。新しいアドレスは eces-manager@ecesj.com です。これまでの see@blue.ocn.ne.jp については新しいメールアドレスの浸透状況を見極めながら、半年を目処に廃止したいと考えています。お使いのメールソフトに登録している学会事務局アドレスの変更をお願いいたします。

2 理事会報告

【第32回理事会】

開催月日: 2006年3月16日(木)16:00~18:00
会場: 弘済会館葵(東)の間(麹町5丁目)
出席: 山岸, 谷田, 大矢, 古川, 森下, 江崎(幹事長), 事務局: 島崎(記録)

委任状あるいは意見提出による出席: 近藤, 辻本, 荒井, 鹿野, 森

開会に当たって、出席が少なかったことについて

議論し、本来であれば前年度中に新年度の予算を検討すべきであるが、多忙な時期であること、任意団体であり厳密な規定がないことから、次年度においては4月初旬にこの時期の理事会を開催することとした。

1) 報告事項

一般経過報告, 会員状況報告, 平成17年度活動報告, 後援行事, 幹事会, 委員会についての報告が事務局および幹事長から行われた。10周年記念大会の準備状況が大会実行委員長でもある江崎幹事長から報告され、内容について了承された。

2) 検討事項について

平成18年度の事業計画および予算案の基本方針について、事務局一般管理費、委員会関係費のうち海外派遣事業費、英文誌関係費を特別会計とすることを含み、おおむね了承された。ただし、平成17年度決算が済んでいないことから以下の事項について、事務局等で引き続き検討し次回理事会に諮ることとなった。

- 事務局管理費関係のうち名簿作成は「行う」方向で検討
- 会誌編集関係のうち過去学会誌の公開用電子データ作成
- 会誌10巻1号を記念特集とする件

3) 事務局人事

現事務局長の任期を平成18年9月末まで半年延長する。

3 大会実行委員会・幹事会報告

【第3回記念大会実行委員会兼幹事会】

開催月日: 2006年6月21日(水)16:00-17:30

会場: 応用生態工学会会議室別室(利根川歴史研究会事務所: 千代田区麹町4丁目)

出席: 江崎幹事長, 熊野副幹事長, 鎌田幹事, 高野幹事, 星野幹事, 中村委員, 長崎委員, 西委員, 事務局: 島崎(記録)

この実行委員会においては、公開シンポジウムの内容などの詳細について各部会の準備状況が報(つづきは4ページへ)

4 10周年記念大会(第10回)開催案内

2006年(平成18年)9月29日(金)~10月1日(日)

(第10回総会・第10回研究発表会・記念シンポジウム(公開))

2006年(平成18年)9月29日(金)~10月1日(日)に第10回大会を10周年記念大会として開催します(第10回総会・第10回研究発表会・記念シンポジウム(公開))。会場は東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)です。本年度は過去2回の大会と全体スケジュールおよび会場が異なっていますのでご注意ください。

研究発表会への発表の募集受付を始めます。研究発表会では、研究成果と共に、現場で抱えている課題や問題提起、プロジェクト提案等を自由に発表できます。会員の皆様の発表参加をお待ちしております。

10月1日(日)には、「土木工学と生態学の壁はとりのぞかれたか?」と題した10周年記念シンポジウムを開催します。招待講演として、スイス連邦環境科学技術研究所(EAWAG)に所属し、河川生態学の分野で現地調査や研究に活躍中のクレメント・トクナー博士をお招きして、スイスにおける研究の事例を交えながら、実際にEAWAGで行われている基礎科学と実務の連携についてお話いただきます(同時通訳あり)。また、川那部元会長から基調講演をいただく他に、応用生態工学会の10年を振り返り、今後の学会の発展のあり方について、多様な立場から現状分析と課題について話題提供をいただきます。さらに、若手の研究者・技術者からも意見をいただきながら、他の参加者を交えた意見交換を行えるシンポジウムとしたと考えています。このシンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施し、一般にも公開します。

(1) 概要

【応用生態工学会10周年記念大会(第10回)スケジュール(予定)】

- ・第10回研究発表会 : 9月29日(金) 10:00 ~ 18:00 「口頭発表」
9月30日(土) 9:30 ~ 12:00 「ポスター発表」
9月30日(土) 13:00 ~ 16:15 「口頭発表」
9月30日(土) 17:15 ~ 17:30 表彰式(ポスター発表)
- ・第10回総会 : 9月30日(土) 16:30 ~ 17:10
- ・10周年記念シンポジウム : 10月1日(日) 9:30 ~ 16:00
『土木工学と生態学の壁はとりのぞかれたか?』
- ・懇親会 : 10月1日(日) 16:15 ~ 17:45

上記時間スケジュールは、変更することがありますのでお気を付け下さい。詳細なスケジュールは8月に送付する大会案内でご案内します。

【会場】

東京大学農学部弥生講堂 一条ホール(定員300名)

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内 TEL. 03-5841-8205(弥生講堂事務室)

(東京メトロ 南北線「東大前」駅1分・千代田線「根津」駅徒歩8分・丸の内線「本郷三丁目」駅徒歩12分)

懇親会: 東京大学農学部生協食堂

(2) 研究発表募集!

応用生態工学に関わる研究報告、研究プロジェクト提案などの一般研究発表の受け付けを開始します。発表方法は、「ポスター発表」と「口頭発表」とします。下記要領に基づき応募して下さい。

〔1〕研究発表内容

研究発表に応募できる講演内容は、応用生態工学に関する調査報告、研究報告、事例報告、研究プロジェクト提案および自由課題です。当該発表の内容が、現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ、研究・調査報告が基礎的内容であってもかまいません。

〔2〕発表方法

応募に当たっては、「口頭発表」か「ポスター発表」のいずれを希望するか明記して下さい。応募状況によっては、実行委員会の変更をお願いする場合があります。

〔3〕発表時間

口頭発表の発表時間は、1課題当たり15分(発表12分、討論3分)程度で、申込数により決定します。

〔4〕研究発表申込(8月4日(金)まで)

研究発表を申し込まれる方は、A4版用紙1枚に、下記事項を記入の上、事務局まで郵便、FAX、またはE-mailでお送りください。後日事務局より受付および「口頭発表」か「ポスター発表」の確認連絡をします。

申込記入事項 (A4版1枚)

発表者名および連名者名と各々の所属(会員番号:連名者が非会員である場合、番号は不要)

研究発表題目

連絡先(〒、住所、氏名、TEL、FAX、E-mail)

研究発表概要(和文200字程度)

「ポスター発表」「口頭発表」の希望

事例報告、研究報告、その他 の別

キーワード(対象地域・対象生物を含め5つ程度)

[対象地域の例] 河川、汽水域、湖沼、海域、森林、水田、畑地、道路、都市、農村、等

[対象生物の例] 生態系、陸上植物、陸上動物、水生植物、底生動物、鳥類、魚類、等

〔5〕研究発表要旨原稿の提出(9月8日(金)まで)

研究発表者(口頭発表及びポスター発表いずれも同じ)は、研究発表要旨原稿(A4版4枚以内)を期日までに事務局へ提出。原稿は下記の要領に従って作成。なお、ポスター発表については、ポスター作成要領および関連スケジュールを後日連絡します。

研究発表要旨原稿作成要領

- ・ 研究発表要旨については査読を行いません。要旨集にもその旨を記載いたします。
- ・ A4版縦、4枚以内ならば枚数は自由です。
- ・ 左右15mm以上、上下18mm以上余白
- ・ 横一段組み、中央に「講演題目」を和文にて、14ポイント程度の文字、2行以内で記入
- ・ 題目の下1行空け右寄せで「講演者名、連名者名、各々の所属」を、12ポイント程度の文字で記入
- ・ 本文は、10.5ポイント・明朝
- ・ 原稿はそのまま印刷できるようプリントし、図表等を張り付けたものを1部提出。メールで送付の場合はMS-WordのファイルまたはPDFファイルの添付でお願いします。印刷は白黒です。

〔6〕研究発表者資格

研究発表者は、応用生態工学会の正会員、学生会員、および賛助会員法人に所属する個人。なお、連名者については会員・非会員を問いません。但し、研究発表者が学生の場合、連名者に会員がいれば可とします。

〔7〕発表賞

ポスター発表、口頭発表のそれぞれを対象とします。選考は大会実行委員会で行い、ポスター発表についての発表賞の表彰式は9月30日の総会終了後におこなう予定です。口頭発表についての発表賞は11月発行予定のニュースレターでお知らせします。

(3) 参加料

研究発表会参加料

：	正会員・賛助会員	6,000円
	学生会員	3,000円

非会員 10,000円

学生非会員 4,000円

懇親会参加料(一律): 3,000円

注1) 9月30日総会のみ出席する正会員は、無料。

注2) 10月1日の10周年記念シンポジウムは無料。

注3) 研究発表会参加料には、当日配布する講演要旨集費用を含む。但し、講演要旨集のみ入手希望の方には、3,000円で販売する。

注4) 合計参加料は、参加者名を明記の上、下記指定口座に振り込む。

注5) 交通手段及び宿泊関係は各自で手配。

(4) 受付期限

- 1) 第10回研究発表会・研究発表申込受付期限: 2006年8月4日(金) 消印有効
- 2) 第10回研究発表会・研究発表要旨原稿提出期限: 2006年9月8日(金) 消印有効
- 3) 第10回総会・研究発表会一般参加申込受付期限: 2006年9月22日(金) 消印有効
- 4) 10周年記念シンポジウム(10/1)参加申込(無料)受付期限: 2006年9月22日(金) 消印有効
(8月発行予定の大会案内等で詳細なスケジュール等をお知らせするとともに、一般参加申込み用紙を同封いたしますが、一般参加の申込みの受付もすでに開始していますので、E-mailで連絡いただくか、ホームページから一般参加申込み用紙をダウンロードしてFAXしてください。)

(5) 申込み及び問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-5第7麹町ビル25号室

TEL.03-5216-8401

FAX.03-5216-8520

E-mail: eces-manager@ecesj.com

【参加料振込先】 銀行口座 (銀行支店名) 東京三菱銀行麹町支店
 (口座名義) 応用生態工学会(ササケイコカツカ)
 (口座番号) 普通1302920
 郵便振替口座 (口座名義) 応用生態工学会
 (口座番号) 00140-7-404275

<<10周年記念シンポジウム「土木工学と生態学の壁はとりのぞかれたか?」プログラム(予定)>>

9:30 開会 開会挨拶・来賓挨拶など

10:10-10:40 基調講演 川那部浩哉 元会長

10:40-12:10 招待講演 クレメント トクナー博士(スイス連邦環境科学技術研究所:EAWAG)
 “Integrated River Restoration Projects: Linking Basic Science with Application.”
 「総合的河川再生プロジェクト:基礎科学と実務との連携」

13:00-16:00 パネルディスカッション

話題提供1 谷田一三(副会長):「河川における土木工学と生態学-異質性と共通性」

話題提供2 竹門康弘(理事):「生息場の科学としての応用生態工学」

話題提供3 中村太士(前編集委員長):「応用生態工学が担ってきた研究領域と未知の領域
 -現状認識と新たな視点の発掘をめざして-

話題提供4 辻本哲郎(副会長):「応用生態工学-生態学と土木工学の連携,その虚と実」

話題提供5 島谷幸宏(理事):「私が期待する今後の応用生態工学」

コーディネーター:江崎保男(幹事長)

(1ページより)

告された。また、各部会から要望を具体的に集め、開催にむけての実施体制づくりを7月に行うこととした。

議論の内容と決定事項についての詳細は4.大会開催案内にまとめられているため割愛する。

5 委員会報告

(1) 普及委員会

開催月日:2006年5月29日(月)14:30~17:30

会場:応用生態工学会会議室別室(利根川歴史研究会事務所:千代田区麹町4丁目)

出席:竹門(委員長),関根(担当幹事),岩瀬,橋本,佐渡,細井,古川,若尾,原田,横山(荒井代理)

事務局:島崎(記録)

- 昨年度の各地での活動および今年度の計画の報告が行われた。昨年度の各地でのシンポジウム等の実施状況はニュースレター等で報告済。今年度は北海道、北陸(富山)、東北、九州で計画中。(北海道、九州の行事については同封のチラシをご覧ください。事務局注)
- 応用生態工学の普及に必要なことについて次のような提案、議論があった。
 - ◆ 普及=会員増と考え各地で入会勧誘活動をしている時に、入会のメリットを明快に説明できると良い。
 - ◆ 現場で抱えている課題に対して、学会に参加している研究者の意見や指導が欲しいが、専門分野などが不明で誰に尋ねたらよいか判らない。相談窓口のようなものがあると良い。
 - ◆ 上記の具体化に向けて理事会に検討を諮る。
- 各地で行事を開催する際の助成の受け方など、実際面で役に立つ情報の交換を行う。

(2) 交流委員会

開催月日:2006年6月14日(水)14:30~16:00

会場:応用生態工学会事務局(千代田区麹町)

出席:中村(委員長),高野(担当幹事),小川,萱場(意見提出),内田(意見提出)

事務局:島崎(記録)

交流委員会では本年度国際交流海外学会等派遣員の選考が行われた。選考の結果は、理事会での承認のあと本人に通知し、次回ニュースレターおよび学会ホームページに掲載する。

6 主催・共催行事報告

「東アジアにおける生態系の修復」に関する国際会議(ICLEE 2006 Osaka)

2006年6月16(金)から18日(日)に開催された標記会議は、参加者260名強、口頭発表71件、ポスター発表112件を数え、当日のキャンセルも少なく、盛況のうちに終了しました。

招待講演者としてイタリア、タイ、台湾、韓国から講師を招いた他、海外からも中国20名、韓国15名のほかロシア、カザフスタン、タイ、ベルギーからの参加があり、当初2会場で並行して行う予定であった口頭発表を4会場で開催するなど多様な環境における生態系の修復に関する議論が行われました。

17日午後に行われた公開シンポジウムには、協賛の日本万国博覧会記念機構および朝日新聞の広報協力もあり、約80名の一般市民の参加も得て、用意した会場はほぼ満席になりました。

また、18日はエクスカージョンとして、午前中は1970年の万国博覧会会場における森林再生現場を、午後は4つのコースに分かれて里山、干潟、都市における自然再生・管理を見学しました。天候が心配されましたが雨にあうこともなく、無事当初の目的通り終了することができました。

本会議のProceedings(要旨集)は若干の余額があります。ご希望の方には3,000円(送料別)でお分けしますので、事務局宛メールあるいはFAXでご連絡ください。

7 これからの行事案内

(1) シリーズ講習会「生物が減少した真の理由とその対策」

(社)日本水環境学界九州支部との共催

すでに第1回・第2回は終了していますが、各回の参加も可能です。詳しくは同封のチラシをご覧ください。

(2) 「本来の川を取り戻すために...その2 ~ 自然再生を拓く河床低下対策 ~」

日時:7月20日(木)~21日(金)

場所:豊平川・真駒内川・夕張川現地見学および南幌町での室内セミナー

申し込み締め切りが迫っていて申し訳ありません。詳細は同封のチラシをご覧ください。

(3) 第5回北陸現地ワークショップ in 富山

日時:10月20日(金)~21日(土)

場所：富山市内(現地見学およびシンポジウム)
北陸でのワークショップの開催も5回目になりました。本年は里地・里山を対象にそこでの自然環境の保全や再生、そのための技術をテーマに講師への依頼などが進んでいます。次回大会案内発送時にはチラシを同封できる予定です。

(4) 第1回九州地区事例発表会

日時：11月17日(金)10:00-17:00

場所：九州大学国際研究交流プラザ(西新プラザ)

「九州の応用生態工学の事例と研究」を気軽に発表、参加できる場として本年から企画されました。同封のチラシはまずは発表募集です。

(5) [後援行事]

第9回水源地生態研究セミナー

「貯水池の生態学」

主催：財)ダム水源地環境整備センター

日時：9月28日(木)13:15-17:30(予定)

場所：星陵会館(東京都千代田区永田町)

講演：<特別講演>クレメント トクナー博士

<講演>道奥康治(神戸大学)

<講演>大森浩二(愛媛大学)

<講演>森下郁子(社)淡水生物研究所)

パネルディスカッション：

コーディネーター 山岸 哲

申し込み等詳細は財団法人ダム水源地環境整備センター研究第3部(03-3263-9945)へお問い合わせください。

(6) 情報サービス委員会提供 関連学会の情報

平成18年度農業土木学会大会講演会

1. 開催日時：8月8日(火)-10日(木)

2. 会場：宇都宮大学農学部棟

3. 申し込み先等

URL：<http://www.knt.co.jp/ec/2006/jsidre/>

<コメント>：応用生態工学会に関連するものとして、農村生態工学研究部会の主催する企画セッションや「環境」分野において農業農村整備事業と水田、水路、ため池に生息する魚類、水生昆虫の関係や水田魚道に関する発表があります。

土木学会2006年度(第42回)水工学に関する夏期研修会

1. コース：

Aコース 河川・水文 行事コード：6029

Bコース 海岸・港湾 行事コード：6030

2. 主催：土木学会(担当：水工学委員会、海岸工学委員会)

3. 期日：2006年8月8日(火)・9日(水)の2日間(A、Bコース並行開催)

4. 場所：岐阜大学 全学共通教育講義棟(岐阜市柳戸1番1、URL：<http://www.gifu-u.ac.jp/>)

5. 定員：Aコース150名、Bコース150名

6. 受講料：1コースにつき1名

一般(社会人) 16,000円

学生・院生 13,000円

7. 詳細等 URL：<http://www.jsce.or.jp/journal/kaikoku/m200605/07.htm>

土木学会附属土木図書館が所有する和洋書および土木学会が発行した論文集などの情報検索サービスについて

URL：<http://www.jsce.or.jp/library/page/opac-fr.html>

<コメント>：土木学会の論文などの情報は土木学会ホームページで検索できます。各支部の講演集など他では検索しにくいものも検索可能です。他学会の方で興味のある方には結構役に立つかと思えます。

2006年度2006年度日本魚類学会年会の開催に伴う公開市民講座：干潟を守る～有明海をどう再生させるか

1. 日時：2006年10月10日(火)13時00分-17時00分

2. 場所：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」

3. 問い合わせ先等：小早川みどり

〒812-8560 福岡市中央区六本松4-2-1

九州大学理学府生物科学専攻細胞機能学講座

TEL 092-726-4761;

mkobascb@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

URL：<http://www.fish-isj.jp/event/2006/sympo.html>

[2006年6月26日現在会員数]

正(学生)会員 1,200名

賛助会員 48法人(71口)

2006.7.2 1700